

漁場のにぎわい伝え

ニシン街道は夕陽の名所でもある。旧花田家番屋の美しいシルエット。

私と遺産

漁師は金遣い荒かった

子供のころからニシン漁で汗を流した小平町鬼鹿の鳴海憲太郎さん（87）は、大正期の漁民と旧花田家番屋にまつわる話を懐かしく語った。以下は鳴海さんの思い出……。

大正初めに既にニシンは減ってたが、それでも2、3年は群衆で海が真っ白に染まることもあった。おれは津軽の出身で4代目だが、あのころの漁師は大金が舞い込んだら、女と酒でその年のうちに全部使ったものだ。「翌春、漁をすればいいべ」ぐらいの感じで、貯蓄する考えはさらさらなかった。そんなふうだからおれのおやじは財産を何も残さず、おれの代になっても貧乏が続いている。

花田家の人は格式が高くて、おれらは相手にされなかった。花田は見識も高かったな。ニシンを引き揚げるのに普通は人夫がモッコを背負ったが、花田はウインチとトロッコを使って大掛かりにやった。

いずれにしても、ニシンを取り過ぎたな。

まちづくりと遺産

かさむ保存費用

苫前町の岡田家を管理する水産加工会社専務の岡田裕幹さん（52）は「老朽化がひどく、個